

乙 第 号

松尾 泰子 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	國安 弘基
論文審査担当者	委員	講師	西尾福 英之
	委員(指導教員)	教授	庄 雅之

主論文

Clinical Importance of CD200 Expression in Colorectal Liver Metastasis.

大腸癌肝転移における CD200 発現の臨床的意義

Yasuko Matsuo, Masayuki Sho, Takeo Nomi, Daisuke Hokuto, Takahiro Yoshikawa,

Naoki Kamitani, Kota Nakamura, Yosuke Iwasa

Annals of Surgical Oncology. 2021 Jan 3. Online ahead of print.

論文審査の要旨

免疫チェックポイント阻害剤の癌における有効性が確立され、新たな癌の宿主が免疫系からの逸脱機構に注目が集まっている。CD200はT細胞に発現する受容体を介して免疫応答を抑制する。本研究では、大腸癌肝転移におけるCD200発現の意義を110例の大腸癌の肝転移巣において検討し、転移巣でのCD200高発現が腫瘍内T細胞浸潤抑制、切除後早期多発再発、および、予後不良と相関することを見出している。

公聴会では、原発巣と転移巣におけるCD200発現の相関やCD200標的化の臨床応用の適応症例などについての質問に対して、転移巣でCD200発現が亢進する傾向が見られることや、化学療法に耐性を示した症例への適応など、適正な回答がなされた。

本研究は、大腸癌における新規癌免疫逸脱機構を示すものであり、がん免疫療法の新たな治療標的を示唆する重要な研究である。

参 考 論 文

1. Pulmonary complications after laparoscopic liver resection.
Matsuo Y, Nomi T, Hokuto D, Yoshikawa T, Kamitani N, Sho M.
Surg Endosc. 2020 Apr 13.
2. Significance of Herpesvirus Entry Mediator Expression in Human Colorectal Liver Metastasis.
Sasaki Y, Hokuto D, Inoue T, Nomi T, Yoshikawa T, Matsuo Y, Koyama F, Sho M.
Ann Surg Oncol. 2019 Nov;26(12):3982-3989.
3. 回盲ヒダ裂孔ヘルニアによる腸閉塞の1例.
松尾泰子, 明石 諭, 杉森志保, 山田行重.
日本内視鏡外科学会雑誌 2018 Nov;51(11):709-713.
4. 肝細胞癌切除後腹膜転移巣に対し腹腔鏡下切除を施行した1例.
辻 泰子, 高 濟峯, 石川博文, 向川智英, 渡辺明彦.
日本内視鏡外科学会雑誌 2013 Mar;18(2):257-262.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに消化器機能制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和3年3月9日

学位審査委員長

分子腫瘍病理学

教授 國安 弘基

学位審査委員

画像診断・低侵襲治療学

講師 西尾福 英之

学位審査委員(指導教員)

消化器機能制御医学

教授 庄 雅之